颯爽と駆け抜けた兒玉さん

瀬尾　勝弘

私の義兄である兒玉寛嗣さんが去る七月八日に亡くなりました。訃報が届いたとき咄嗟に、猛暑による熱中症かと思いました。

ご家族の話では、兒玉さんは亡くなるその日まで元気にしていて、奥様が外出から帰宅したときに倒れているのを発見して救急車で搬送されたそうです。病院の医師の説明では、虚血性心不全で苦しまずに静かに旅立ったとのことでした。

兒玉さんは、ＯＢペンクラブで積極的に活動されていました。彼の妹の夫である私は、彼に会う度にクラブの会員になることを勧められて、昨年六月に入会しました。『悠遊』３２号に初めて投稿し、会員としての最低限の務めを果たせたと思っていたところでした。

彼から昨年六月に送られたメールに「何でも書こう会、掌編小説勉強会、サロン21、英語を読もう会に参加しています」と書かれていました。クラブの事務局業務など、精力的に活動している様子が、定期的に届く本クラブの各種行事の連絡から窺えました。

亡くなる二日前に書かれた「何でも書こう会」への投稿作品も読むことができました。「新しい航路」というタイトルで北極海航路の今後の発展について歴史を振り返って考察した内容です。彼の作品は、エッセイでも掌編小説でも、背景の描写が細やかで、いずれのテーマでも、あまり一般的には知られていない内容にも触れており、その博識ぶりには目を見張るものがあります。

それぞれの作品の結末は意表を突くようなものではなく、いずれも穏やかな形になっています。この「兒玉スタイル」は、この度の突然の人生の幕引きと通じ、誰からも愛された彼の人柄がよく現れていると思えます。ご冥福をお祈りします。

合掌

猛暑日に　突然逝きし　義兄（あに）の笑み
祇園前　笑みを浮かべて　逝きし義兄
線路から　聴こえるリズム　盆供養

タッタタッタタ　かすかに聴こゆレールの音（ね）　小倉祇園の太鼓の響き
通夜の前　駅舎近くのホテルにて　列車の響き太鼓と聴こゆ
義兄逝きて　集いし人と語り合い　縁（えにし）引き継ぐ子らを見守る